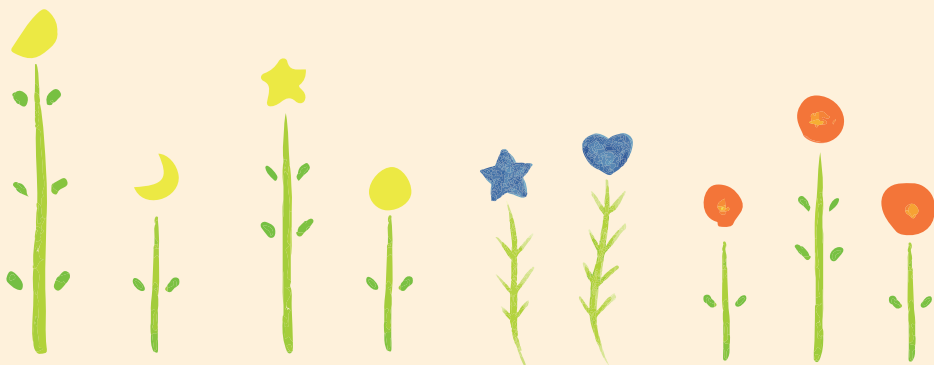


エシタロプラム錠/OD錠「サワイ」を服用される 患者さんご家族の方へ

— 社交不安症（SAD） —



※SAD: Social Anxiety Disorder

社会不安障害、社交恐怖とも呼ばれることがあります。

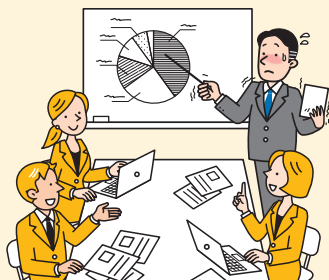
エシタロプラム錠/OD錠「サワイ」の効能・効果は社会不安障害です。



社交不安症（SAD）とは

不安や緊張を感じる状況や、その状況を避けることで、社会生活に支障をきたすようになる状態のことです。

..... ● 社交不安症（SAD）には以下



人前で発表や発言をするのが
極度に怖い・緊張する



人と接するのが
極度に怖い・緊張する



人前で食事ができない



人前で文字を書くとき
手が震えて書けない



主な治療法は「薬物療法」と「精神療法」です。
治療を始めるにあたり、
気になることがあったら主治医に相談しましょう。



のような特徴があります ●



周囲からの視線が
極度に怖い



注目されると
緊張で赤面する・汗をかく



人前で電話をかけるのが怖い



周囲に人がいると
用を足すことができない

社交不安症（SAD）になる原因

- 脳内にある神経伝達物質のバランスに乱れがあるといわれています。特に恐怖や不安をやわらげる働きのあるセロトニンの量が低下していると考えられています。
- 本人の性格が不安を感じやすい傾向であることも、原因のひとつであると考えられています。

複雑な人間関係が生じ、緊張や不安を感じやすくなる社会環境も背景にあるといえます。

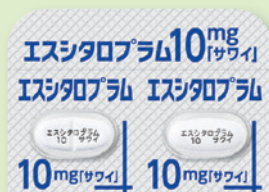


エシタロプラム錠/OD錠「サワイ」について

- 脳内の神経伝達物質のバランスを整え、恐怖や不安をやわらげることで、社交不安症（SAD）を改善するお薬です。
- **1日1回夕食後に、決められた量を服用してください。**服用するときは、コップ1杯くらいの水またはぬるま湯といっしょに飲んでください。
- このお薬は、効果があらわれるまでしばらくの間飲み続けることが必要です。**すぐに効かないからと勝手にお薬をやめたり、減らしたりしないように注意してください。**

〈エシタロプラム錠10mg/20mg「サワイ」〉

錠10mg



錠20mg



〈エシタロプラムOD錠10mg/20mg「サワイ」〉

OD錠10mg



OD錠20mg



〈OD錠の飲み方〉

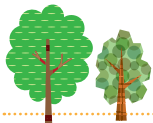
OD錠は口の中で溶けるため、水なしでも服用できます。ただし、寝たままの状態では水なしで服用しないでください。普通のお薬と同じように水で服用することもできます。どちらの飲み方でも、効きめは変わりません。

服用する前の注意点

次のような場合には、このお薬を服用することができません。
服用する前に、必ず主治医または薬剤師に伝えてください。

- ☑ 以前にお薬を使用して、アレルギーなどの過敏症が出たことがある方
- ☑ セレギリン塩酸塩、ラサギリンメシル酸塩、サフィナミドメシル酸塩を服用中あるいは服用中止後14日以内の方
- ☑ ピモジドを服用中の方
- ☑ QT延長（先天性QT延長症候群など）のある方
現在、心臓の病気（不整脈、狭心症、心筋梗塞、心不全）の治療を受けていたり、今まで心電図検査で何らかの指摘を受けたりしたことがある方は、QT延長がある可能性がありますので、主治医に伝えてください。

他にお薬を服用している場合や、新たに服用する場合は、主治医に相談してください。



次のような場合には、このお薬を服用する際に特に注意が必要です。
服用する前に、主治医と十分に相談してください。

●QT延長を起こす可能性のある方

[QT延長を起こすことが知られているお薬を使用している方、不整脈（著しい徐脈など）がある方/または過去に診断されたことがある方、うっ血性心不全のある方、低カリウム血症のある方]

●高齢者

●肝臓に障害、または腎臓に重い障害のある方

●死にたいと強く思ったり考えたりしたことがある方

●そら躁うつ病の方

●脳に器質的な障害があると診断されたことがある方、
または統合失調症になることが考えられる方

●衝動的な行動を起こしやすい病気を合併している方

●てんかん等のけいれん性疾患のある方、
または過去にこれらの疾患と診断されたことがある方

●出血の危険性を高めるお薬を使用している方、出血しやすい方

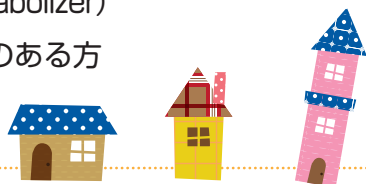
●閉塞隅角緑内障の方

●小児

●CYP2C19[エスシタロプラムを分解(代謝)する酵素]の活性が
遺伝的に欠損している方(Poor Metabolizer)

●妊娠中または妊娠している可能性のある方

●授乳中の方



服用中の注意点

- ① 毎日夕食後にきちんと飲みましょう。飲み忘れた場合、決して2回分を一度に飲まないでください。誤って多く飲みすぎてしまったときには、主治医に連絡してください。
- ② 治療中はお薬の効果の確認や副作用を早く見つけるためにも、定期的に診察を受けてください。
- ③ 症状が少しずつよくなると、「治った」「回復した」と感じる場合があります。このような場合でも、自分の判断でお薬の服用をやめたり、量を減らしたりすると、些細なことでも心配になる、いろいろ、あせりなどの症状があらわれることがあります。主治医と相談しながら指示どおりに飲み続け、最後まで治療を続けてください。
- ④ このお薬を飲んでいる間（特に飲みはじめや、飲む量を変更した時）に、不安感が強くなり死にたいと思うなど症状が悪くなることがあります。このような症状があらわれた場合は、主治医に相談してください。



5 次のような攻撃的な態度や行動をとったりすることがあります。これらの症状があらわれた場合は、主治医に相談してください。

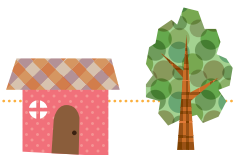
- 不安が急に強くなる
- いらいらする
- あせる
- 興奮しやすい
- 発作的にパニック状態になる
- ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す
- 敵意を持つ
- 攻撃的になる
- 衝動的に行動する
- じっとしていることができない など

6 眠気・めまいなどの症状があらわれることがあるため、**自動車の運転などの危険を伴う機械を操作する時は、十分に注意してください。**

ご家族の方へ

ご家族の方は、「死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちの変調を来す」など患者さんの行動が変化する可能性について主治医から十分に理解できるまで説明を受け、患者さんの状態の変化について観察してください。患者さんの状態に変化がみられた場合には、主治医に連絡してください。

また、患者さんご自身も、病状に変化があったと感じた場合には、ご家族の方にも伝えるようにしてください。

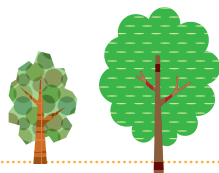


副作用について

次のような症状があらわれた場合は、主治医や薬剤師に相談してください。

- 悪心
- 眠気
- 頭痛
- 口の渴き^{かわ}
- めまい
- 倦怠感
- 下痢
- 腹部不快感
- 射精障害、射精遅延、性的な関心や性欲の低下 など

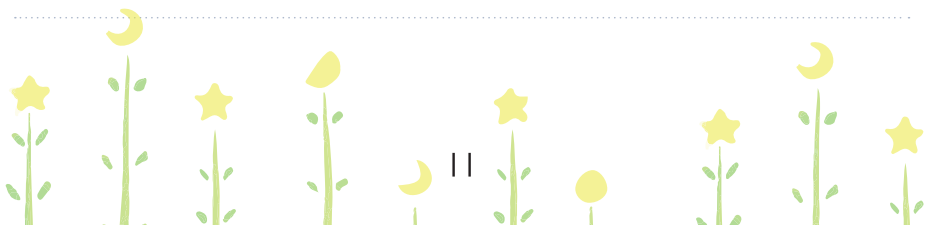
副作用がつらいと感じた場合でも、自分の判断でお薬の服用をやめたり、量を減らしたりしないでください。急に服用を中止すると、副作用や不安症状が悪化するおそれがあります。主治医と相談しながら、指示どおりに飲み続けることが重要です。





MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing, spanning the width of the page.



sawai

